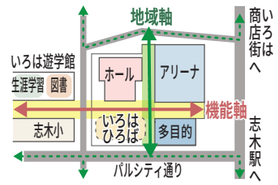
地域連携と機能融合のクロスオーバーにより賑わいを生む市民活動の拠点

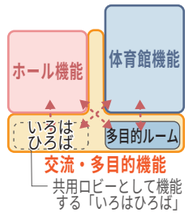
①地域軸と機能軸による明快な構成

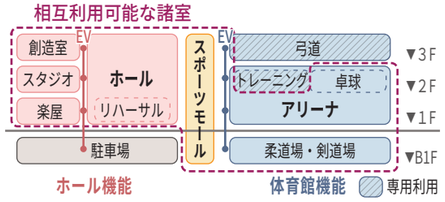
- タテ軸の地域連携軸がホールと体育館の間を抜けて南北の市街地を結び、街路空間を建築内に引き込みます。
- 横軸となる機能融合軸は志木小学校・いろは遊学館とホール・体育館機能を横一列に結び、各機能の融合を促進します。



②機能性を高めるホール機能と体育機能の明快な並行配置

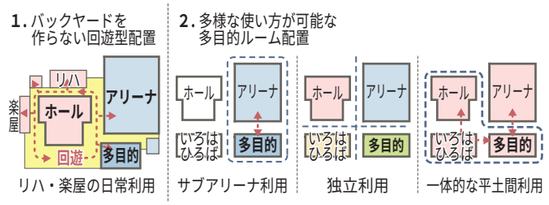
- ホール機能諸室を西側、体育機能を東側に明快に区分配置し通常利用の利便性を高めます。
- ホール３層、体育機能４層にそれぞれ縦動線となるＥＶを設けます。





③重ね使いを最大化する３大フラットスペースの１フロア配置

- 可動席によるホールの平土間とアリーナ、多目的室を利便性の高い地上レベルに配置し、様々な相互利用が可能な構成とします。リハーサル室も独立した小公演に利用できるよう共用部と舞台ゾーン双方に接した配置とします。



□市民ホール、市民体育館それぞれの空間構成

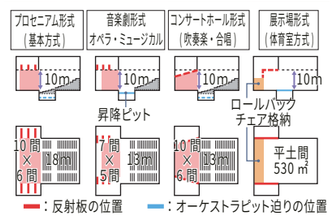
コンサートからサブアリーナ利用まで可能な多機能ホール

多様な演目に高度に対応する舞台機能

- 既存館に比べ舞台を拡幅し間口10 間、プロセニアム高さ 10 mとし最新の舞台機構・音響・照明設備により、少ない人員で多様かつ高度な演出を可能にします。

生音の感動を伝える音響の良いホール

- 音響反射板間口高さを 10 m、客席部天井高さを 12 mとするシューボックス形式とし十分な気積を確保。明瞭な音響と豊かな響きを実現します。

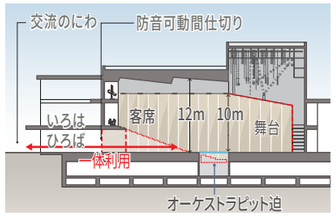


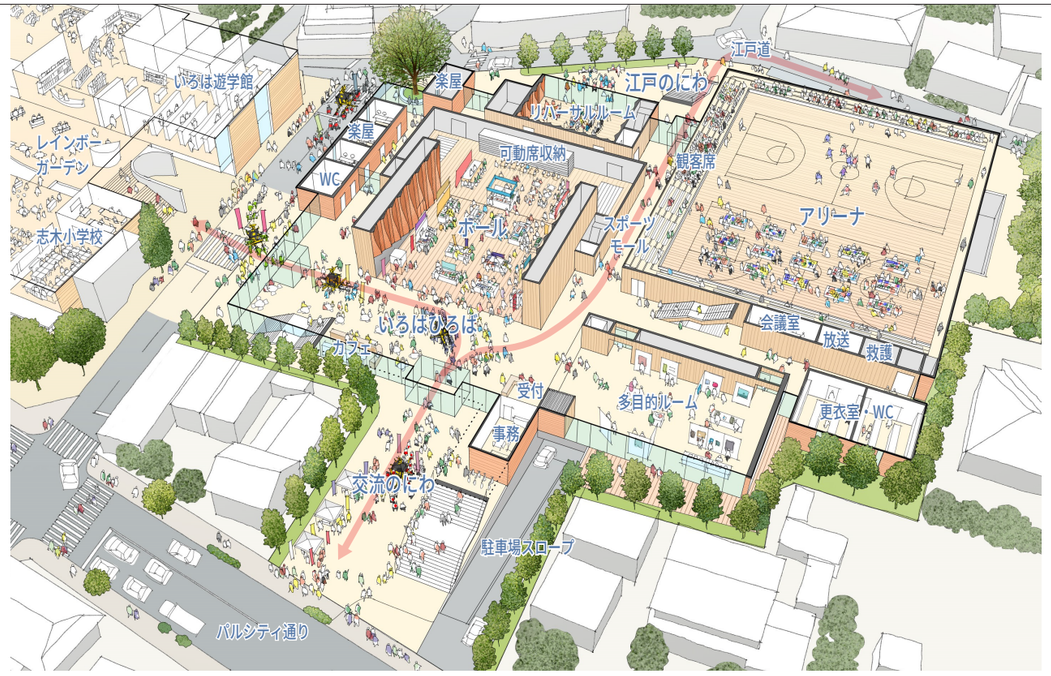
530 ㎡の平土間空間

- 客席前部を迫上のワゴンタイプ客席とすることで舞台と客席を同一レベルとします。後部客席をロールバックタイプの可動席とし、客席から舞台まで一体の平土間となります。

ホールといろはひろばの一体利用

- ロールバック可動席を移動式として舞台後部に収納。客席後部壁を２重防音可動間仕切とし、ホール平土間といろは広場の一体利用が可能です。





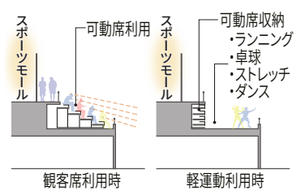
観客席が重ね使いできる多機能アリーナ

アリーナを囲むコの字配置の観客席・ランニングコース

- 観客席はメイン４列、左右２列、のコの字型とし対面する部分を通路で結び、アリーナを周回するランニングコースとしての利用を可能にします。

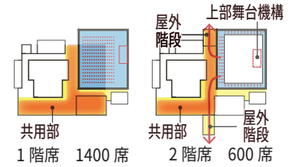
平土間になる観客席

- スポーツモールに面した４列の主観客席及び左右の２列は後部通路下に収納可能な可動席とし、3.6 m及び 1.8 m幅の平土間に転換可能です。卓球・ランニング・軽運動に利用可能です。



大会から日常利用までの高い利便性

- 地上レベルにあるアリーナは外部の二つの庭や多目的室、ホール平土間とも連携できるため大会時のウォームアップスペース、練習場として利用できます。

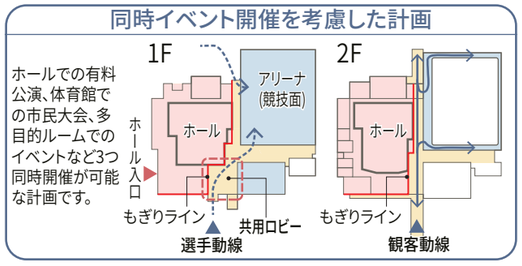


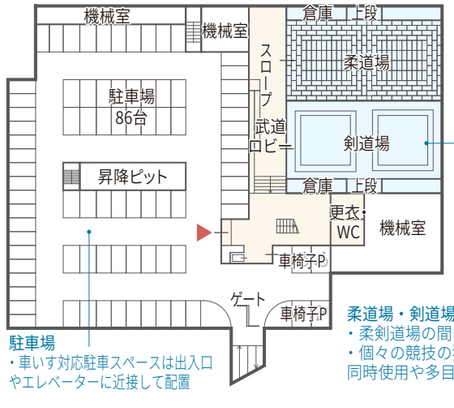
2000 人規模のイベントにも対応可能

- 地上レベルにアリーナを配置するため、アリーナで 1400 席規模のイベント行ってもスムーズな入退出が可能です。ステージの設置が想定される部分に照明バトンなどの舞台機構を設置します。

同時イベント開催を考慮した計画

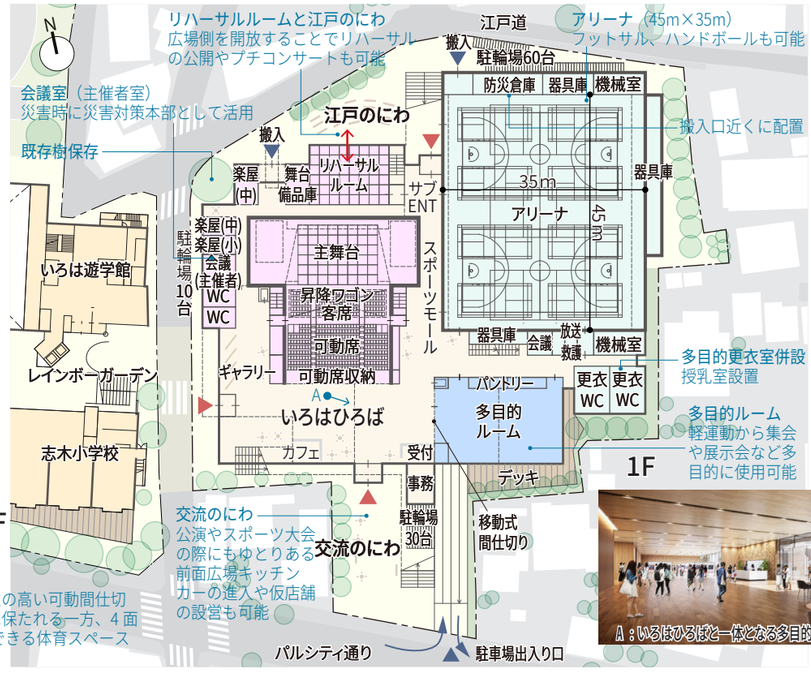
ホールでの有料公演、体育館での市民大会、多目的ルームでのイベントなど3つ同時開催が可能な計画です。





駐車場
・車いす対応駐車スペースは出入口やエレベーターに近接して配置

柔道場・剣道場
・柔剣道場の間は遮音性の高い可動間仕切
・個々の競技の独立性は保たれる一方、４面同時使用や多目的活用できる体育スペース



スタジオ
・音楽練習、発声練習などに適した部屋
・語学教室にも活用可能

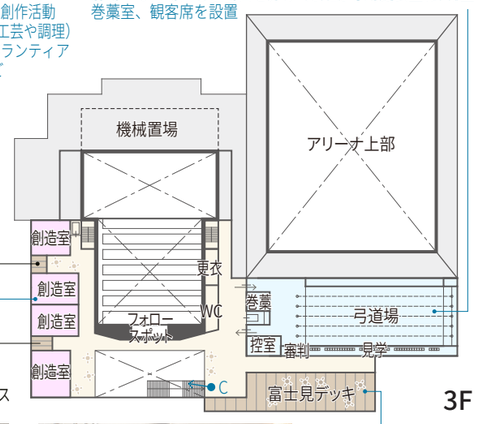
アリーナ観客席
・２階スポーツホールやコンコースから立ち寄りやすいガラス張りの観客席

もぎりライン
ホール公演時には有料入場者と、公演関係者、一般来館者を区分けできます。（ベルトインバリカー等）

トレーニングジム
南に開け、明るく開放的

創造室
・貸会議やリモートルーム
・市民の創作活動（美術、工芸や調理）
・市民ボランティア活動など

弓道場
５人立ちで、矢場は屋外で、維持管理が容易な人工芝張り射場へは入場口と退場口を分けて計画。専用更衣室、師範室、巻藁室、観客席を設置



富士見デッキ
・田子山富士塚と富士山頂上を結ぶ線状に位置する施設として富士塚とほぼ同じ高さから、富士山を望むことができるデッキ。市民の憩いの場にもなります。